

『Blessing』

～あなたの口と心は？～

ヤコブ3：9～10

■ 私達は平和を作る人

アドベントに入りました。夜が長くなり、闇が深まる季節です。闇が深まるほどにはっきりと光を見出すことができます。『しかし上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、あわれみと良い実とに満ち、かたより見ず、偽りが無い。義の実は、平和を造り出す人たちによって、平和のうちにまかれるものである。』（ヤコブ 3:17-18）

私達は平和の種を預かり、蒔くものです。平和とは1つにさせる、統合させるという意味があります。平和を作る人とは、無理に場を盛り上げたり、思ったことを言わずに穏便に過ごすのではなく、その場をつなぎ合わせることができる人です。

私達が平和の人として預かった種を蒔くなら、必ず誰かの祝福になります。その種撒きは私達のふるまいや言葉によることを忘れてはいけません。

■ クリスマスの準備が進む中で

今教会では12月20日のクリスマスの準備を進めています。その一つのプログラムに「お菓子の街」を作る恒例の人気企画がありますが、今年はみんなには帰る家がある」というテーマで街の中に大きなお菓子の家を建てます。

先日、物づくりの得意な男性陣が集まって、お菓子の土台になる家を建てました。壁になるベニヤ板を切って、夕刻寒くなり始め、組み立てて終わりという頃、設計図より数mmずれていて組み合わせた板がぴったり合わないという事態が起こりました。強引に留めて終わらせるか、問題を先延ばしにすることが心に浮かびました。

そんなことを考えていると、中心で作業をしてくれていた一番年長の男性が「やり直そう」と言いました。心にとっさに浮かんだのは「え！今から!?」でした。しかし、その言葉に男性陣は即座に動きました。この出来事から、人生も同じだと感じました。小さなずれをそのままにすると後で大きな問題になります。先延ばしにすれば誰かに負担がかかります。今直すことが大切なのです。

■ 神様の設計図に従う

素人には一つ一つの工程の順番や、重要性が分かりませんでしたが、年長者の男性の判断は確かでした。神様の設計図に従う私たちも同じです。土台の歪みを直すように、神様が「今直さない」と語られる時があります。タイミングが合わないように思えても、その小さなずれは神様から見えて、愛する私達の人生にとって重要なのです。

■ 口から出る言葉

ずれを直すことになった時、「このくらい大丈夫だよ。もういいじゃん。」そんな言葉が思わず口から出ました。周りにいた人は誰も文句を言いませんでした。誰も文句は言いませんでしたが、無言で作業を続けるメンバーの姿を見て、言わなきゃよかったと後悔しました。小さな言葉が人生に大きな影響を与えます。

『わたしたちは、この舌で父なる主をさんびし、また、その同じ舌で人間をのろっている。同じ口から、さんびとのおろいが出て来る。このような事は、あるべきでない。』（ヤコブ 3:9～10）

■ 呪いと祝福の言葉

イゼベルは欲のために嘘をつき、人を陥れました（1列王記 21:10）。ここで「呪う」と「祝福」の原語が同じであることは、神の恵みを曲げる行為を皮肉に表しています。ヨブは「呪う」という言葉を避け、あえて「祝福」と言いました（ヨブ 1:5）。神への従順を示す姿です。

■ 私の口、私の心は今大丈夫？

外国の野菜のマーケットの写真にイエス様が隠れた写真を見ました。私達の言葉や振る舞い、人となりを通して、神様の栄光を表すためのポイントが3つ紹介されました。

①自分の現状を素直に受け取る（さばかない）

ヤコブ書は「人は皆過ちを犯す」と語ります（3:1～2）。だからこそ、自分の現状を素直に受け入れ、人を裁かないことが大切です。

②みことばに従おうとする

『馬を御するために、その口にくつわをはめるなら、その全身を引きまわすことができる。』（ヤコブ 3:3）

この箇所は「柔和」という原語の意味そのものの箇所です。馬が制せられるように神様に全てをゆだねることを合伝えています。

③アクションを変える

苦い思いや偽りを捨て、祝福の言葉を届ける（ヤコブ 3:14）。口を制御し、このポイントを守ろうとするなら、まっすぐに祝福の言葉を誰かに届けることができるのです。

■ 存在自体が祝福

そして一番大事なことは自分の存在自体が祝福であるということ。何ができなくても、調子が悪くても、生きていること自体が祝福です。クリスマスのプログラムは恵みの機会です。私たち自身が祝福の源であり、存在そのものが神に喜ばれています。祝福の源の存在である私たちが、素直でない振る舞いをしたり、偽りの言葉を語る時、それは歪みます。

やられたらやり返す、気に入らなければ言い返す、やる気が出なければやらない、嫌なことがあれば不機嫌になる、そんなことをしていないでしょうか？

使っている言葉は大丈夫？

態度や振る舞いは大丈夫？

イエス様は裏切られても呪いの言葉を使わず、「彼らを赦してください」と祈られました。

自らを犠牲にしても、私を愛し、「この子はきっとやり遂げることができる」と信頼してくれています。神様の愛に立ち返り、祝福をたくさんの人に届けることができる、そう信じてくれています。祝福の存在として、愛を流す器となりましょう。

■ まとめ

闇の中に光として来られたイエス様を思う時、私たちも平和を作る人として生きたいと願います。クリスマスを迎える前に、ふさわしくない言葉や行いを正し、隣人に愛を流す器として整えられますように。

（要約者：藤原 友規子）

（2025年12月7日）